



京丹波町
KYOTAMBA TOWN

第33号

平成25年1月17日

発行 京都府京丹波町議会

京丹波 議会だより



上達を願って(質美笑楽講：旧質美小)

年頭のご挨拶

京丹波町議会

議長 野口久之



新年明けましておめでとうございます。
うございます。

町民の皆さまにおかれましては、平成二十五年の輝かしい希望に満ちた新春を、ご家族おそろいでお迎えになられましたこと心からお慶び申し上げます。

新年を迎え、議員一同新たな決意のもと、町民の皆さまにより近い議会となるよう、議会の活性化とともにさらなる町民生活の向上と福祉の増進に全力で取り組んでまいりますので、格段のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、この一年が、皆さま方にとって幸多い年でありませうお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。



新年度からの完全給食に向け 準備が進む 瑞穂学校給食センター厨房機器購入に 3400万円の追加補正

会計名		補正額	補正後の額	主な内容
一般会計		1億 4310万円 うち専決処分 1500万円	132億 2420万円	衆議院選挙事務経費 ※専決処分 土地開発基金繰出金 旧JA質美倉庫の解体工事 障害者自立支援事業 ホンシメジ製造施設 整備補助金
特別会計	国保事業	6236万円	19億7478万円	療養給付費の増
	介護保険事業	▲2230万円	19億9100万円	施設介護サービス 利用者の減
	下水道事業	424万円	9億8623万円	施設修繕

24年第4回定例会は、12月4日から19日までの期間で開催されました。本定例会には、人事案件、条例の制定と改正、一般会計・特別会計補正予算など37件が提出され、全議案を同意・可決しました。また、11人の議員が一般質問を行い、41項目について執行部の所見をいただきました。

補正予算

一般会計

12月16日執行の衆議院議員選挙に係る補正及び24年度も8カ月を経過し、事業の完了や経費の確定、進捗状況など精査が行われるなかで、新たな財政需要を検討し編成された。

主な質疑

問 林業対策事業助成金1億円の瑞穂農林での事業規模と内容は。

課長 従来のハタケシメジ生産ラインを縮小し、ホンシメジ生産ラインを新設するもの。事業費は2億円。うち1億円の国庫補助を受けて実施する。

問 保育所費の臨時雇用賃金の内訳は。

課長 みずほ保育所で2人を雇用している。

問 予納金、延滞金の徴収は本税から行うべきではないか。

課長 滞納者死亡による相続財産管理人選任に係る費用であり、裁判所に支払うもの。また、延滞金は本税から徴収している。

問 ケーブルテレビの利用促進補助金45万円の内訳は。

課長 7万円が6件で42万円。3万円が1件である。

問 災害復旧工事の減額は、入札で執行額が確定した6月の時点ですべきだったのでは。

課長 大規模工事なので。

で留保していた。

問 道路新設改良費の地域拠点整備に係る立木補償費などは、全体事業費18億2500万円に含まれるのか。

課長 含んで計画している。

反対論 山田 均 議員

地域振興拠点の整備に予算が重点配分されているが、旧町ごとに地域に合った施設の整備が適切であり反対。



ホンシメジ生産ラインが新設される瑞穂農林

先行取得用地の特徴的な活用事例は



梅原 好範 議員

町長 太陽光発電施設があり自主財源確保につなげる

問 土地開発公社の債務は、20年度末で簿価23億5800万円、年間約4300万円の金利が発生していた。

現在に生きるものが汗を流して最大限の努力をし、未来に負の遺産を引き継がないとした町長の考えにより進められた買い戻し経過と、その利活用を問う。

特徴的な先進事例として、大倉区で建設が進む大規模太陽光発電施設がある。誘致成功に至るまでの経過、地元雇用や施設周辺の維持管理について問う。

町長 買い戻しにより簿価及び金利は大きく改善した。未活用の土地は企業立地などの有効活用に向け検討する。太陽光発電施設が最適と判断し、地元と一致した思いのなかで決定した。自主財源と地元雇用の確保につなげたい。維持管理は企業と協議し対応する。

地域と育む林業大学校の支援を問う

問 同校は開校後半年が経過し、学生と地域の交流が育まれ良い関係にある。しかし新たな学生ニーズが発生し、修学環境の支援がどのように受け入れられているか危惧する。来年度の学生数倍増を踏まえ、ニーズ調査の把握と運営の方向性を問う。

町長 ニーズを把握している同校と常に協議することが重要であり、府や地域連携協議会と連携しながら、地域と同校の発展に努めたい。また、同校を育英資金の対象校とする。

問 下宿先不足を憂慮し、同校による地域活性化に夢を託された民間活力により、学生受け入れ用住宅の建設が進められている。指定察としてあっせんするなどの積極的な支援を提案する。



建設が進む大規模太陽光発電システム(大倉地内)

町長 受け入れ困難な状況を危惧していたが、学生用アパートが建設されることに感謝している。同校とともに積極的な住居あっせんをするなどの支援をする。

高齢者の意向に沿う新しいバス運行に向けて

問 運賃半額社会実験の分析結果、そして福祉支援との連携を図り在宅高齢者を対象とし

た意向調査を実施するなど、より良きバス運行への取り組みを問う。

町長 実験では特段の変化が見られず、運賃と乗客数の関係性は非常に薄いと分析した。公共交通及び福祉施策との連携を図るため、在宅高齢者の実態を把握する意向調査を本年度に行い、新たなバス運行を模索し課題解決につなげる。



横山 勲 議員

25年度は寺尾町政仕上げの年度、予算編成方針は

町長 選択と集中によるメリハリのある予算編成を



工夫しながら進められている少人数学級の授業(竹野小学校)

問 予算編成方針と重点施策は。

町長 財政健全化を念頭に安心・活力・愛のあるまちづくりに向けた施策をさらに充実する予算編成としたい。

問 集落が管理する有害獣檻の管理費助成は。

町長 自助、共助の取り組みとして協力いただきたい。

問 人口動態をどう見ているのか。また、対

応する施策と財源確保対策は。

町長 緩やかな人口減少が続くと予測される。合併特例の期間内に行財政基盤の確立を図りたい。

問 行政改革期間は本年度で終了、総括と次期計画は。

町長 24年度決算状況などを踏まえ評価したい。また次期計画は事業の進捗状況なども見

極め検討したい。定員適正化計画は。

町長 職員定数条例に定める定数をもとに管理している。

問 合併特例債、発行額の見直しはあるのか。

町長 今後の財政状況を勘案しながら検討したい。

小学校の教育環境整備について

問 将来の教育像は専門的な見地に加え、町民としての視点の両方を見据えた議論が必要では。

広域農道の管理について

問 たくましく生きる力を育むための理念は。

教育長 生きる力を育成する基本的な観点を重視した教育がこれまでに以上に必要。

問 教育環境の整備の考え方は。

教育長 将来的に30人を割る学校も出る。学習環境の整備は今後の検討課題。

問 学級において適切と考えられる構成人員は。

教育長 より教育効果が上がる少人数での授業形態を工夫している。

問 広域農道の管理は、農道管理条例により管理されているが、条例と実態は乖離していないか。課題はないか。

町長 管理の基本となる位置付けを検討しなければならないと考えられている。

問 公安委員会による安全対策の対応、対策はいつになるのか。

町長 啓発看板を設置した。速度制限など現状の交通状況から見て規制には至らないようであるが、引き続き協議したい。

優秀な人材育成が大事では



村山 良夫 議員

町長 人材は自ら育成するもの

問 町長のマニフェストを達成するには、郷土愛とあいさつができる人材の採用が基本では。

町長 そうした人材を採用し、教育したい。

問 一般職は、地方公務員試験の合格者。専門職・技術職は、有資格者・その課程の修了者を採用すべきでは。

町長 専門職・技術職は受験資格を設けている。

問 自己啓発で能力アップした職員と、何もしない職員では、「昇給・昇格」は、差別化される人事制度か。

町長 差別化は行っていない。

問 期待する役職者の能力は、リーダーとしての統率力と、後継者の育成でないか。

町長 組織を統率する能力や人材育成は必要である。

問 能力を発揮させるためには、上司に対する

信頼が大事でないか。

民間企業の愛社精神

町長 上司の範となる行為が人材育成につながる。

問 ボランティア・ロードの行政上の位置付けは。

町長 町民の参加も、職員の参加も意義のある必要な事業である。

問 今回は、ケーブルテレビのニュースにもならないのか。

町長 意外でした。

問 当日の雨天は、天気予報で予測できたはず。雨天では参加者が激減する。職員への参加呼びかけなど、参加者の負担を軽減する策は講じたか。

町長 天候によって、呼びかけは変えていない。

問 参加状況は把握していたか。

町長 当日の参加総数は、217人。うち職員は27人、民間企業か

らは121人である。

問 三菱自動車社員の「社会への奉仕精神と愛社精神」は、見習うべきでないか。

町長 ぜひ見習いたい。

今後、より多くの職員の参加を期待する。

いじめとスポーツ教育

問 今回、ゴンターズ高原のメンバーと指導者が参加していた。指導者の話によると「対戦成績は自慢できない

が、上級生が下級生の面倒をみる姿、下級生が上級生を尊敬する姿は自慢できる」とのこと。スポーツ教育が弱者をいたわる心を育み、いじめ撲滅の一助の手本でないか。

教育長 スポーツ少年団の活動は、大きな役割を果たしている。

問 スポーツ少年団の予算は少額と聞かすが。
教育長 現在13団体、年間予算は50万円。



スポーツ少年団の練習風景(ひかり小学校)



原田 寿賀美 議員

町道の年次的改修計画に基づく進捗状況は

町長 工事完了3カ所、実施中15カ所、未実施が17カ所



町内で施工中の縦貫道丹波綾部道路(瑞穂地内)

問 京都縦貫道丹波綾部道路の進捗状況と、用地買収及び作業道路の建設状況は。

町長 10月末時点の進捗状況は着手率約74%、用地買収は約99%である。作業道路は現在20カ所である。

問 府道広野綾部線の開通時期は。

町長 京都縦貫道丹波綾部道路の完成後、国・府との調整が必要で、

少々時間がかかる。

問 現道は幅員が狭く、カーブも多く通行上、安全に不安がある。改修の見込みはあるのか。

町長 縦貫道の工事道路として、国・府において用地買収も進められている。

問 町道角広瀬線は、路面損傷や排水管の破損が生じているが、その対応は。

町長 現在応急処置済

み、早急に改修する。

問 町道を、5カ年計画で年次的に改修とのことであったが、その進捗状況は。

町長 工事完了が3カ所、実施中が15カ所、未実施が17カ所となっている。

高齢者にやさしいバス事業を

問 70歳以上の高齢者料金を半額、運転免許の自主返納者を無料にする考えは。

町長 検討する。

問 デマンドバス運行の実証実験を実施する考えはないか。

町長 町営バスとの関連もあり、調査研究する。

内水面漁業の充実を

問 由良川の漁業環境は、河川の荒廃や外来魚・カワウによる被害により、年々厳しくなっているがその対策は。

町長 河川の荒廃対策

は、国・府への要望を検討し、カワウは有害鳥獣対策として取り組む。

和知簡易水道事業の早期完成を

問 簡易水道事業西部地区の進捗状況は。

町長 進捗状況は23年度で13%、24年度で65%となっている。立木地内については、縦貫道や工事用道路との関係で、国・府と随時協議しながら早期完成に努める。

就学前教育の充実を

問 上豊田保育所下山分園の26年度以降の再開園の見込みは。

施設を整備して、幼保一体の認定こども園として再開園しては。

町長 耐震診断の結果により、25年度まで休園し、再開園する場合は、本町に最もふさわしい就学前教育制度を検討したい。



清風台など団地内道路の町道認定を



篠塚 信太郎 議員

課長 町有地として所有権移転の調整をしたい

問 清風台団地内道路は、3級町道認定の基準を満たしているのに認定すべきでないか。

課長 道路用地として明確なものは、所有権移転の調整をしたい。

問 グリーンハイツ団地内道路は、1級町道として認定すべきでないか。

課長 道路基準は満たしている。道路外の部分や民地もあり整理が必要。

問 みのりが丘団地内道路は、3級町道として認定すべきでないか。

課長 引き受けられる道路は、自治会と協議し検討したい。歩道は再度調査の上、区域変更したい。

問 団地内道路で町道認定基準外道路は、町有地とすべきでは。

町長 公衆用道路として、受け入れ可能なものは受け入れたい。

上升谷橋の拡幅改良は

問 幅員が狭く軽自動車でも離合が困難なことから、拡幅改良すべきでは。

町長 拡幅改良は、更新時の検討課題としたい。

環太平洋連携協定 TPP の参加交渉は

問 町長は TPP への参加交渉について、どのように考えているか。

町長 全国町村会の参加反対の方針と決議を尊重したい。

問 TPP により関税が撤廃された場合、その対策は。

町長 国・府制度の活用だけでなく町独自施策を推進し、本町の農業を守り育てていく。

全国学力テストの結果を公開すべきでは

問 広島県福山市は学力テストの結果を公開し、児童のヤル気も起

きている。先例を参考に公開しては。

教育長 近隣市町村の状況や京都府の指導も受け考えたい。

ケーブルテレビを活用した家庭学習番組を

問 南丹市が中学生の家庭学習支援として放送している番組を放送しては。

教育長 町独自の基礎学力の向上などにも取

り組んでおり、放送は考えていない。

プレミアム商品券発行経費全額補助を

問 商工会が来年度発行予定のプレミアム商品券発行経費の全額町補助を。

町長 発行経費全額を補助することは困難だが、商工会と協議してきる限り支援したい。



清風台団地内道路(蒲生野地内)



松村 篤郎 議員

町道下山駅前線の改良整備計画を早期に示すべきでは

町長 通学路として危険箇所の部分改良を念頭におき検討する



急勾配急カーブで危険な通学路(下山地内)

問 町道下山駅前線の改良整備について、早期に事業計画を示すべきではないか。

町長 事業計画は、地形的に急勾配があるため色々な制約があり、直ちに事業着手することは難しい。指定通学路でもあり指摘のある危険箇所の部分的な改良も念頭にいれ、今後検討したい。

問 府道京丹波三和線下山工区の事業計画を早期に公表することを強く要望すべきでは。

町長 促進同盟会とともに整備計画の早期策定を京都府に強く要望していく。
問 町道235号線的全線供用開始の見通しは。
町長 町道235号線の道路整備に合わせ、

南丹市側で道路改良事業が進められ、市側で通行止めとして工事を進める必要がある。工事の進捗上、迂回が必要となるため、本年度完成は無理である。全線供用開始は、南

丹市側の事業進捗とあわせて実施する予定である。

ダム周辺整備計画は

問 畑川ダム周辺整備事業を25年度に実施する予定はあるか。

町長 昨年度、畑川ダム地域整備連絡会において、基本となる計画案をとりまとめたが、畑川ダムの完成により周辺の風景の変化も想定される。また地域によるさくら苑整備や直売スペースの整備、京都府による展望ポケットパークの整備が進められていることから、実施計画と共に事業規模を検討する。
問 予算規模とその財

源確保の見通しは。
町長 基本計画のなかで算定し、また財源は実施計画のなかで検討する。

下山分園の 存続について

問 25年度も休園となる下山分園の対策は。存続を望む地元の要望については。

町長 休園中の入所希望は、上豊田保育所本園をはじめ町内の保育所で、また保護者の就労状況により広域入所などで対応する。

今後は地元や関係の皆さまの意見を聞きながら、将来的な児童数の動向や耐震補強に要する費用面など、諸事情を考慮し慎重に判断する。

問 休園中の園舎や園庭の維持管理の計画は。

町長 担当課において安全管理や除草などの施設の維持管理を行なう。



子育てニーズ調査と「地方版子育て会議」の設置を



森田 幸子 議員

町長 ニーズ調査と会議設置に向け検討する

問 年金・子育て支援の充実や軽減税率の検討を含む低所得者対策、景気対策など政府案を大きく修正して、3党合意で社会保障改革と税の一体改革法が成立した。この一体改革では現場の声を踏まえた子育て環境の充実を図る、子ども・子育て関連3法が成立。さまざまな角度から実施される子育て支援策の実施主体は市町村としている。本町において、子ども・子育て支援事業計画に向けた、ニーズ調査と子育て会議の設置の考えは。

町長 ニーズ調査と子育て会議設置に向け検討する。

問 会議の構成メンバーとして、子育て中の保護者を増員すべきと考えるが。

課長 検討していく。

小型家電の回収箱設置を

問 使用済み携帯電話などに含まれる希少金属の再利用のため、公共施設に小型家電の回収箱設置の考えは。

町長 現在、衛生管理組合において分別仕分けしているので、設置の考えはない。

街灯LED照明の導入に支援策を

問 以前の一般質問で、省エネ対策として、街灯LED照明の導入に支援策を調査検討する、との答弁であったがその後の検討は。

町長 さらに検討する。

問 公共施設へのLED照明設置に、民間資金を活用したり、方式にすれば初期費用が抑制され財政負担が軽減される。このリース方式による導入の考えはないか。

町長 経費面から有効

であれば、真剣に検討したい。

旧須知小トイレの整備を

問 グラウンドゴルフなどで利用される高齢者の皆さんが、洋式トイレが無く大変苦労されている。洋式トイレの整備をする考えはないか。

教育長 校舎内にある洋式トイレを利用する

よう周知したい。

マーケス内に期日前投票所を

問 多くの皆さんが利用するマーケス内に、期日前投票所の設置をする考えはないか。

選挙管理委員長 現在の期日前投票所は機能しており、セキュリティ対策やコスト面などからも設置は考えてない。



現場の声を踏まえた子育て支援を(須知幼稚園)



坂本 美智代 議員

在宅医療・介護を充実するには医師確保が

町長 医師は必要であり努力していく



車幅いっぱいの町道(質美下村地内)

問 超高齢化社会に進むわが国では、福祉医療・介護の充実が求められる。町内の「介護よろず相談所」での相談状況と内容は。

町長 町内8カ所の事業所と社協3支所の11カ所に設置し、9月現在延べ83件。施設利用希望や住宅、介護相談を受け対応してきた。

問 24時間365日安心して暮らすため、高

齢者のケアを担う在宅医療・介護を充実するには、いつでも飛んできてくれる「かかりつけ医」が必要である。体制は十分なのか。

町長 今後も医師確保は、要望していきたい。

今後の下山分園は

問 耐震診断の結果で25年度も休園となる。報告を受けた地域や保護者の意見は。

町長 街灯設置補助金を活用し、地域で設置

また今後、町の考えは。
町長 休園が閉園になるのではないかなど、不安の声もあるが、実態調査を経て、利用者主体に考えたい。

防犯灯の設置を

問 府道綾部宮島線において、国道27号から升谷子来バス停の間、防犯灯がなく辺りも暗く危険である。防犯灯を設置すべきでは。

町長 街灯設置補助金を活用し、地域で設置

問 町内には狭小区間の町道が多くある。現時点で改良路線は何路線か。今後の計画は。

町長 改良済は8路線であり、現在実施中は5路線。今後は3路線の着手を計画している。

ごみ減量化に向けて目標を

問 家庭ごみの減量に向け、町独自の減量目標を掲げ、住民意

識向上を求める考えはないか。

町長 本町の1人当たりの出すごみの量は、府内で一番少ない。引き続き啓発などに努めていく。

国が示す安全基準で大丈夫か

問 東日本大震災により、自然の恐ろしさ、それ以上に原発の怖さが知らされた。これまでも町長の考えを聞くなか、国の示す基準をも守ることで、原発は安全であるとの認識なのか。

町長 絶対安全とは思わない。原発はゼロにすべきと考える。



次年度予算編成方針と 町づくりへの思い・決意は



岩田 恵一 議員

町長 生の声を町政に活かしていきたい

問 寺尾町長3年間の町政運営に係る公約の達成感は。

町長 町民目線・町民本意で住民との信頼関係の構築に努めてきた。

町民は町政の安定を望んでおり、引き続き財政健全化、各種施策の推進に全力を傾注する。

問 任期最後の通年予算である次年度予算編成の方針とまちづくりへの思い・決意を伺う。

町長 選択と集中、めりはりのある予算編成として、安心・活力・愛のあるまちづくりの各種事業に真摯に向き合い、また町民のなかに溶け込んでいき、生の声を町政に活かしていきたい。

町政に対する 町民の思いは

問 町長と語るつどいにおいて、町政に対する思いをどう受け止められたか。

町長 多くの参加を得て町政への期待を重く受け止めた。住民目線での町政運営と信頼関係の構築に引き続き努め、丁寧な対応と職員と一丸となって活性化に努めていきたい。

国保会計の予算編成は

問 基金の取り崩しに伴い、次年度以降はさらに厳しい予算編成で医療費の高騰により収支バランスは崩れ、国保税の改正をせざるを得ない状況下にあるのではないか。

町長 医療費の高額化、上昇により国保財政は誠に厳しい。国保税の改正も視野に入れて予算編成せざるを得ない。

問 住民の安心を担保する医療制度の確立には負担を抑える施策も必要で一般会計の繰り入れをすべきでは。

町長 基準外繰り入れは、考えていない。

土曜授業導入の考えは

問 新学習指導要領で授業時間が大幅に増え全国各地で土曜授業が広まっているが本町での導入の考えは。

教育長 本年度、竹野小と和知中が研究校に指定され土曜日を活用した教育を実践している。効果・課題を検証し考えていく。

問 次年度に掲げる学校教育充実の本身は。

教育長 小中学校の完全給食実施や、きめ細かな指導と、支援員の配置も引き続き実施する。

また、教育実践推進校の指定や教員のスキルアップなどに努め、指導方法の工夫改善を進め、教育の充実につなげたい。



試験湛水中の畑川ダム



東 まさ子 議員

消費税引き下げの立場が自治体の使命ではないか

町長 町村会で結集した意見を国に届けた



生活を直撃する消費税増税

問 消費税は、弱者いじめの不正な税金であり、増税は地域経済と財政を悪化させ、全ての世代の暮らしと営業に打撃を与える。増税実施の立場か。

町長 11月21日、地方の意見を反映するとともに、低所得者対策は国の責任で実施する立場での意見を町村会に結集し国に届けた。
問 医療・年金・介護・保育など、社会保障

は切捨てばかりで、改善ではないか。

町長 世代を問わず給付と負担の均衡を図ることで、社会保障の財源と財政健全化を図るとされている。年金、医療、介護、子育て支援について「社会保障国民会議」の議論を注視していく。

問 地域経済や町内業者に与える影響や病院・診療所は、医薬品、医療機器などの購入時

に消費税を払うが、保険診療は非課税のため患者の医療費に転嫁できない。経営への影響はどうか。

町長 病院経営に良い作用は起きない。病院に限らず影響はあると思われる。

国保税の負担軽減を

問 滞納が減らない理由について伺う。

町長 負担できない人と負担できるのにしない人がある。

問 徴収強化をしても限界があり、町民を苦しめるだけではないか。

町長 所得がないとなれば払えない。一層話し合いで対応したい。

問 加入者の所得が低ければ低いほど保険料率を上げないと必要な保険料収入を確保できない。結果として所得に対し、重い国保税になっている。国保税の負担軽減は自治体として取り組まなければならない。

らない重要な課題ではないか。

町長 国保事業は、国庫補助と保険税で賄うのが原則である。

問 福祉医療実施による国の補助金減額、未集金分の上乗せ、特定健診の負担などは必要な医療費の支出に原因しているのではない。必要以上に高額にしている部分は町が負担することは大事な施策でないか。

町長 ルールに沿った一般会計からの繰り入れが適切と考える。

地域拠点施設の財源は

問 (仮称)ハイウェイテラス・京たんばの過疎債償還計画は。

町長 過疎債は10億円余りで、返済は12年償還。利息は全体で約6000万円を見込んでいます。交付税算入があるので、年約2400万円が実質的な町負担である。



TPP締結すれば どんな影響が



山田 均 議員

町長 農業する人が激減するかと思う

問 TPP「環太平洋連携協定」は、太平洋を囲む国々の間で包括的経済連携協定を結ぶもので、アメリカをはじめとする11カ国での協議は、「例外なき関税ゼロ」「非課税障壁の撤廃」が原則で、原則承認が交渉参加の条件になっている。

答 参加すれば食料自給率（現在は39%）は13%に低下すると農水省も認めている。

また、食品添加物などの規制緩和、国民皆保険制度や地域医療が崩壊するとして、日本医師会も反対している。TPP締結で本町ではどんな影響を受けるのか。

町長 大きな影響を受け、農業する人が激減すると思う。

私が町長をしている間は、農業を守っている。

**水需要は
本当にあるのか**

問 試験湛水が始まった畑川ダムから5000トンの取水を予定しているが、人口増加の要因はアンケートから見込んでいるが、開発団地で「住民票を置かないが給水を希望する」の6団地11地区216戸を調査した。定住が18戸、セカンドハウスが132戸、倉庫など14戸、建物なしの更地が50区画であった。1戸当たりの人口を2・73人で毎日271リットルを使用する計算で水需要を見込んでいる。計画年度に216戸に590人の人が増える見込みがあるのか。過大な見込みで進めると、負担は最終的には住民になる。十分な調査と科学的な根拠で計画は作るべきである。

町長 計画は妥当である。



1日も早い災害対応を（水呑地内）

問 ダム近くに断層があり、ダム湖の水漏れの心配を指摘する専門家もあるが、問題はないのか。

課長 ダム軸を上流に20m移動した。安全は確保されている。

**暮らしの支援や
防災対策の強化を**

問 入札制度を地元業者優先に改善すべき。

町長 今のところ見直

す考えはない。

問 国や府の補助対象にならない急傾斜地の防災対策は、町独自の支援制度を考えるべき。

町長 考えていないが、個別対応をしている。

問 公民館など指定避難場所の耐震改修に、補助率の引き上げなど支援をすべきでないか。

町長 自治振興補助金を活用されたい。

管外視察研修

11月19日から21日までの3日間にわたり、23年3月11日発生の東日本大震災被災地の宮城県内3カ所を視察研修しました。

視察目的として、各地の被災状況、震災ガレキの処理工程や処分状況、港やまちの復興・復旧状況などを実際に目の当たりにし、被災者の生の声を聞き、肌で感じ取るなかで、1年8カ月過ぎた被災地の実態を把握することになりました。

研修を通じ、私たち議員として防災の見識を深め、今後の本町における災害対策の強化及び適性かつ迅速な対応などを図ることの参考となりました。

宮城県災害廃棄物処理施設

11月19日、最初の視察先は地元企業等を含めた特定業務共同企業体が宮城県からの発注を受け、災害廃棄物処理業務を実施している山元町の処理区である。宮城県の沿岸の12市町を8ブロックに区分してブロック毎に処理をしている。



堆積物を選別するフィンガースクリーン

廃棄物混合の津波堆積物をフィンガースクリーン選別機で大小を選別し、その後各種の選別方法で選別して土砂を復興資源として利用している。木くずは

この山元処理区の概要は用地面積が12・8haあり、23年10月19日～26年3月25日の期間で災害廃棄物50・7万ト、津波堆積物41万m³の処理業務を実施している。

コンクリート破砕機でコンクリートくずを破砕し、再生骨材を復興資材に利用している。粗大・混合ごみは破砕し、トロンメルで選別・磁力選別・風力選別・手選別などを行なっている。

破砕後選別または、水洗浄し土砂・塩分を低減。可燃物は2基の焼却炉で日量300トを焼却する。また、木質バイオマスガス発電で175kwの電力と熱を施設内に供給し合理化を図っている。

担当者の話によると、被災した農地は、すべて津波による塩害で不能となり再開の目途が立っていない。処理施設の面積がまだ不足していることや、コンクリートや土は盛土などの復興資材として利用できるが、焼却灰の処理には問題があると聞いた。

3年間ですべての廃棄物を県内で処理する計画には敬服した。

被災地語り部ガイドツアー

被災地に入り2日目となる20日早朝よりは、移動の貸し切りバスにボランティアガイドが同乗した。

自らも津波で自宅が全壊した被災者でもあるボランティアガイドの説明は、車窓から飛び込んでくる悪夢の後のような景色とともに、発災時の惨状が生々しく伝わるものであった。

大曲浜く石巻市門脇地区く中瀬地区く日和山へと進むなか、テレビ報道で見覚えのある場面を何度も目にすることになり、車中では思わず全員が合掌し、被害に遭われた方のご冥福を心よりお祈りした。

津波被害は我々の想定する水害とは全く異質のものであり、田畑の塩害や住宅地の地盤沈下は、復興を大きく阻害するものであることを思い知らされた。

また、いたる所に積み上げられた災害瓦礫の山。そして無造作に積み重ねられた、錆びついた鉄屑と化した莫大な数の廃棄物は、見るものに計



被災者の心を勇気づけるスローガン

また、いたる所に積み上げられた災害瓦礫の山。そして無造作に積み重ねられた、錆びついた鉄屑と化した莫大な数の廃棄物は、見るものに計



り知れない自然界の脅威を教え、復興までの長い道のりと、ご苦労を想像させた。

被災地の現状を視察し本町として、①同時

多発的に広域において発生する自然災害に対応する、無線通信による屋内外広報手段

②迅速な対策本部の立ち上げと命令系統の確立 ③災害時に町内外の関係機関を調整・統括する想定訓練 の必要性を痛感した。

プレハブの仮店舗で商売を再開され、大きな声で客を呼び込む女性の方から、「もう同情や慰めの言葉は要らない。このみんなが元気になるように、いっぱい買い物して帰って！」と品定めをせかされる場面があり、重々しい空気の中での視察において、唯一救われた瞬間となった。

『負けるな東北！
がんばれ東北！』

気仙沼市立 本吉病院

視察2日目の11月20日には、気仙沼市立本吉病院を視察した。

当病院のある本吉町は、21年9月1日に気仙沼市と合併し、海岸から4km離れた所に位置する。

東日本大震災による大津波により、1階が浸水被害を受けた。

病院関係者の方(院長、副院長、看護師長)から当時の状況と防災

への対応の問題点など、話をうかがった。

看護師長からは、「まさか海岸と逆の津谷川方面から川を伝って、津波が押し寄せてくる

とは思わなかった。寝たきりの入院患者20人を、16人の職員で屋上にあげるためにはどうするのか、パニック状態になりましたが、2階の階段付近で水が止まり、夕方には水が引いていった。

患者の誘導に対し、外に出すことは考えていたが、上にあげることは考えていなかった。

院長からは「本町は民間医療機関のない医師の過疎地であり、病院に來られない患者のケアができていなかったが、震災をバネに地域の皆さんが安心して住めるよう、今後、在宅医療の充実に向け、病院に來られない方への往診をしたい。」との院長の思いを聞き

1階の浸水により医療機器は壊滅状態で使用不能となったが、徐々に復旧し、また整備中の状況である。

自家発電装置は1階にあつたため使えなくなり、懐中電灯で対応した。一週間で薬や食べ物もなくなり、他の病院に搬送した。

支援は震災直後からの3月14日から、阪神淡路大震災での経験をふんだん徳洲会医療チームが、困っている病院を探し救急車3台で支援に來てくれた。

院長からは「本町は民間医療機関のない医師の過疎地であり、病院に來られない患者のケアができていなかったが、震災をバネに地域の皆さんが安心して住めるよう、今後、在宅医療の充実に向け、病院に來られない方への往診をしたい。」との院長の思いを聞き

臨時会

11月5日、第4回臨時会が開催され、(仮

称)ハイウェイテラス・京たんばに係る補正予算と請負契約の変更が提案され、全議案を可決しました。

一般会計補正予算

(仮称)ハイウェイ

テラス・京たんばの事業者選定手続きを実施するため、7億9000万円の債務負担行為を設定するもの。防災拠点機能の追加、古墳公園への散策路の新設や調整池の変更などにより、全体事業費は18億2500万円になる。

〔賛成多数〕
問 財源内訳は。
課長 一般財源3800万円、交付金6億1280万円、基盤整備部分が1億6575万円で、起債は10億845万円を予定している。

問 設計業務などに議会の議決は必要か。
課長 建築工事のみ必要となる。

反対討論 山田 均 議員

京都縦貫道の通行車両中心に考えるのではなく、町の中に人を引き寄せる施策を行うべきであり反対する。

賛成討論 山内 武夫 議員

町の発展に大きく寄与するもので、地域経済、地元雇用の拡大が大いに期待できる施設であり賛成する。

工事請負契約の変更

下山地内の地すべり災害復旧工事の工期を、12月28日から25年3月29日までに延長するもの。
〔全員賛成〕

問 残土処分地となる、畑川ダムの現場事務所は。
課長 順次撤去をいた

だきながら、盛土として50cm程度のかさ上げをする。



当時の状況を語る病院関係者

いたが、上にあげることは考えていなかった。防災への対応は、十分でなかったこと、想定外とはいえない。病院は高台に建てることが望ましい。

問 財源内訳は。
課長 一般財源3800万円、交付金6億1280万円、基盤整備部分が1億6575万円で、起債は10億845万円を予定している。

問 残土処分地となる、畑川ダムの現場事務所は。
課長 順次撤去をいた

閉会中の委員会報告

総務文教 常任委員会

11月30日にこれまでの調査、審議、検討内容について総括し、今後における取り組み内容について、各委員に意見を求め協議した。

◎委員会の開催状況

23年11月に新たな委



建設の進む新給食センター(橋爪・大朴地内)

職員を招き、映像を交えながら貴重な活動報告会を開催した。

また、所管する町営バス事業に關しては、利用者とともに路線バスに乗り込み、利用者の声を聴取

しながら、運行状況の調査を実施した。

◎今後の活動方針

これらの活動経過の報告と確認を踏まえ、①常に積極的で詳細な議案審議を目指す。②机上に提出される資料のみの判断に頼ることなく、できる限り現場に出向き現状を調査する。③本町の懸案事項である、先行取得用地の有効活用を目指して、積極的な調査と研究を行う。④新給食センターの来年度運用開始に向けて、並行して進められている町立学校の施設改修工事を含め、適正で円滑な運用開始がされるよう検証していく。この内容を委員会において確認し、すべての委員が決意を新たにした。

産業建設 常任委員会

11月13日に開催し、担当課から所管事業について説明を受けた。

産業振興課からは、新規農業法人「妙楽ファーム」「株式会社みとけ」設立の経過が説明された。食味測定機を使った測定では、委員が持参した新米の食味値は80以上の数値であり、土木建設課による仮



管理棟に設置されている屋外モニター(畑川ダム)

ら取水された原水が給水されるまでの流れを確認した。

◎現地踏査

府道広野綾部線の広野高架橋は、綾部市との境界付近に建設された橋梁であり、

称「ハイウェイテラス・京たんば」整備事業については、事業者が施設整備・維持管理業務・運営業務を行う『DBO方式』の説明を受けた。

監理課からは、「契約管理システム」「入札情報公開システム」更新内容を確認し、建設事業等監視委員会の開催状況と電子入札事業の平均落札率などを調査した。

水道課では、ダムから取水された原水が給水されるまでの流れを確認した。

大簾川の深い谷間を跨ぐことから架設工法に特殊な工法(吊床版工法)を採用しており、100mを超える支間長を有する同種の道路橋としては、国内最大規模である。現在、縦貫道の工事用道路として使用され、今後の供用開始が待たれる。

畑川ダムでは、11月1日から試験湛水が始まり、13日現在の貯水量は底部より約10mであり、今後通常の雨量であれば1月末に満水となる見込みである。25年度からの給水が予定されている水道の取水口、また管理棟に設置されている監視システムを視察した。

その後、畑川浄水場施設にてダム完成後の取水を想定した配水系のフロー図により町内各配水池につなぐ水道用水の流れを説明され、確認した。



交通網対策特別 委員会管外視察

10月23日、三重県南伊勢町へ管外視察を行った。

南伊勢町は、面積245・6キロ㎡、人口1万5244人、高齢化率42・2%のまちで、24年10月からフルデマンド方式のバス運行が実施されている。

デマンドバスの利用方法は、当日受付が可能で、乗り降りする場所と時間を

電話で予約し、乗車時に運賃を支払う。一人で乗降が可能な方なら誰でも利用でき、運行計画や配車などすべてコンピューターにより管理されている。



運行されているデマンドバス車両を視察

これまで国道中心であった町営バスの既存路線に比べ、地域の細部までの運行がされ、各種ニーズに対応することで外出機会が増えるなど、高齢者の元気づくりにも効果が出ている。

また、本格実施されるまでの町営バス利用実態調査や運行の仕組み、実証実験での課題について、行政担当者や委託事業者から説明を受けた。

議会広報特別 委員会研修会

10月29、30日に、東京都永田町で町村議会広報研修会が開かれた。

1日目は議会だよりと行政広報やホームページの差別化を図ることや、議会広報紙の撮影方法や表現方法などの講義があり、2日目は講師によるクリニックが行われた。

講義では、「目立たせる」「簡潔に伝える」ときに視点をおくなかで、一般質問のページは内容で編集し、議員間で量に差が出てしまわぬを得ない。

学校の教材になる企画を考える。
縦組みではなく横組みを基本とする。など、今まで当委員会が意識していなかった提案もあり、今後の参考にしたい。

クリニックでは第31号議会だよりを提出し

た。編集基準の一貫性や一般質問の情報量をできるだけ多くしている点、また住民登場や追跡調査などの企画とともに、議会終了後1カ月以内に発行している点も、高評価につながった。



クリニックで高評価を得た本町議会だより

研修を通して、以前までは是としていたこと

に対しての変化も感じた。例えば表紙に子どもの写真をのせることで、手にとってもらいやすくする。という手法が、現在も多くの町村議会広報紙で使われている。「議会広報は表紙のかわいい子どもたちの写真を見た後、ほとんど中身を読まねば捨てられる。」などの耳の痛い指摘もあり、「手にとってもらう」

だけでなく、「内容を

んで理解してもらおう」

必要を感じた。
先日行なわれた国政選挙が歴史的な低い投票率を記録し、国民の政治離れが進んでいる。この議会だよりを通して、本町ではどんな問題があり、どのように議論され、何が決まったかを、興味をもって

いる一部の町民だけでなく、より多くの年齢層に読まれ、理解してもらおう表現・編集方法を模索していきたい。

訂正とお詫び

10月17日発行の議会だより京丹波第32号の7ページに不備がありました。

左記のとおり太文字部分を追加訂正するとともに、深くお詫びいたします。

討論

反対 東 まさ子 議員

取得時の目的など経緯があいまいで、その説明責任が町長にある。地価下落のなか、多額の買戻しには反対。

賛成 岩田 恵一 議員

27年度までに全て整理するという町長の強い意思の表れであり、今後の利活用や処分に期待し賛成。

賛成 北尾 潤 議員

取得時の値段と使途が違うという理由で残り、そのことで利子が利子を生んできた。前に進むためにも賛成。

議会での議論がその後どうなっているのか、町民のみなさんの疑問に答える企画です。

あれから どないなっとるんや〜？

問 土地開発公社の塩漬け土地の利活用を、民間も入れて検討すべきではないか。

町長 財産の利活用および処分は大きな課題であり、検討したい。

問 原子力防災計画の策定方針を早急に示すべきでないか。

町長 関係機関と調整を図りながら、慎重に策定を進めていく。

こうなった！

町と地元区で利活用が協議され決定した、民間の大規模太陽光発電施設が建設中である。



大倉地内

こうなった！

住民避難訓練の実施など、より実効性のある計画となるよう策定を進めている。



住民避難訓練でのスクリーニング作業

地域づくりに関心ある仲間と活動



京丹波町高岡在住

金延 かねのぶ 英樹さん 47歳



京丹波ロードレースにて

今回は、田舎暮らしに憧れ平成9年にデンマークタウンに引っ越して来られ、自治活動にも協力されるなかで、今は竹野地域の活性化に向けて、活性化委員会（準備委員会）の事務局長として活躍の金延英樹さんをお尋ねしました。

——この町に来られたきっかけは

結婚して洛西ニュータウンに住んでいました。二人目の長女が生まれる前に、田舎の物件を見に来たのがきっかけです。

——この町に来られた時の印象は

以前生活していた洛西は、賃貸マンションでしたが、都市環境の全てが揃った所でしたのでご機嫌で生活していました。

竹野地域を妻と二人で見た印象は、自然豊かな日本の風景でした。信号がないのでビックリしました。

住んでみて感じたことは、皆さんが親切なこと。一昔前の良き日本を見た気がしました。空気が綺麗。田畑がある。夜は暗く、星が綺麗！星空いっぱいに蛍が乱舞しているのを見た時は涙しました。

——自治活動に取り組みられたきっかけは

まずは、熱心な勧誘もありまして、地域の輪に入ろうと消防団に入団した事です。次は竹野小学校PTA会長を務め、その後中村区長を務

めた間にお会いした方々との関わりからです。

中でも、『同じやるなら、やらされる区長よりやる区長に!!』と声をかけて頂いた中西代表との出会いが、準備委員会に関わる最大のきっかけになりました。

また、丹波地区区長会研修旅行は大変刺激になりました。

——竹野地域活性化委員会の立上げづくりは

先人の皆さんが育んできた地域づくりが礎になっていきます。

私たちの合言葉は『とりあえずやろかいな!!』

今年『ふるさとがえり』映画上映会と竹野小学校と地域合同で『竹野大運動会』を行いました。

これから組織立上げに向けて活動を総括していくところです。

——今後の抱負と本町に望まれることは

少子高齢化、過疎化を解決することは大変難しいことだと思いますが、地域の活性化を図り、竹野に戻りたい、竹野に住みたいと思える地域づくりは出来ると思っています。そのためひとつとして、様々な形で竹野の内外に情報発信と受信を行っていききたいと思っています。

遊び心からはじめた TAKENO FILMSは現在ケーブルTVに投稿を続けています。

先日、第3回恵那ショートムービーコンテストに応募した竹野の映像が、審査員特別賞を受賞、仲間で感激しているところです。

10年後、竹野に住んでいて良かったと思える田舎があったら、かつ、竹野の子供達が誇りに思えるふるさとを残せることを夢見て地域づくりに熱い仲間と活動していきます。

(一・一・Y)

表彰

議会議員在職35年以上の地方自治功労者として、山田均議員が総務大臣感謝状を受けられました。



編集後記

東日本大震災被災地の宮城県視察研修を昨年11月に実施し、議員の目で見えた被災地の現状を報告しました。仮設での生活が続く被災者の悩みや、早期復興に対する強い思いを忘れてはなりません。

畑川ダムには試験湛水の水位が平常時に達し、水面の青さが映えてきました。一つの大きな事業が完成間じかとなりました。

本年も「議会だより」をご愛読いただきますようお願い申し上げます。

(A・M)